

<p>日本建築学会北海道支部 2021年度 通常総会</p>

日時 2021年5月21日(金)
会場 オンライン開催

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2021 年度総会議案

I 2020 年度事業報告

本資料に記載される「1. 支部運営の諸会合の開催～10. 建築関連団体との活動」(例年と同様)の事業を行った。

なお、2022 年度の建築学会大会は 2019 年度に北海道で開催することが決定しており、これを受けて設置された「AIJ 大会 2022 会場検討 WG」ではコロナ禍の状況に鑑み、対面開催とオンライン開催の双方の可能性および問題点を検討した。

1. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2020 年 5 月 22 日

会場 北海道建設会館

新型コロナウイルスの影響により中止、支部 HP に総会議案書を掲載して報告

◆ 支部役員会

4 回開催(通信支部役員会含)

◆ 常任幹事会

5 回開催

◆ 選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2. 1 学術委員会 (主査：岡崎太一郎，委員数：13名，委員会開催数：4回)

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を伝達するとともに、各専門委員会および特定課題研究委員会から活動報告を受けた。支部研究発表会実行委員会、建築文化週間事業企画と道内工業高校巡回講演会への講師派遣に関して、審議を経て承認し、来年度の特定課題研究に関して、審議を経て推薦した。北海道支部技術賞を募集し、本委員会を母体とする技術賞選考委員会を設置し、表彰技術候補を選考した。本年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、委員会を全てオンライン開催とせざるを得なかった。困難な状況の中、やむなく中止した事業もあったが、万全な感染防止方策を施して実施した事業もあった。各活動の詳細は以下の通りである。

(1) 研究補助金

・ 特定課題研究委員会

農漁村地域づくり研究委員会「北海道の農漁村地域づくり計画の構築に関する研究」

主査：柳田 良造 君 2020-2021 (新規)

・ 特定課題研究委員会

歴史意匠専門委員会「北海道沿岸部に現存する戦争遺跡、ならびに関連資料に関わる調査研究」

主査：西澤 岳夫 君 2019-2020 (継続)

(2)北海道支部技術賞選考部会

2020 年度支部技術賞は、下記 2 件の応募 (応募順・技術名のみ記載) があった。

① 高断熱を活かした木外装防火構造外壁の開発

② 非住宅施設でも採用可能な断熱障子の開発・実践

上記の応募について、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の 3 つの観点に基づいて、表彰候補技術として 2 件を選定した (選定理由は支部技術賞の項目を参照)。

表彰技術名一高断熱を活かした木外装防火構造外壁の開発
表彰技術名一非住宅施設でも採用可能な断熱障子の開発・実践

(3)建築文化週間事業

2020年度事業として以下の催事を採用した。

- ・見学会「釧路の歴史的建造物の保存と活用を考える」：歴史意匠専門委員会
2020年10月10日に、午前と午後に1回ずつ実施、参加人数17名。旧五十嵐家住宅・旧田村家住宅を例に、歴史的建築物の保存活用について解説を受けたあと、旧五十嵐家住宅と見学し、その建築的特徴と魅力を楽しんだ。
他に、都市防災専門委員会による「くしろ防災屋台村」も企画したが、出展先の「くしろ安心住まいフェア」が中止されたために、やむなく中止した。

(4)支部研究発表会 技術パネル展

2020年度の支部研究発表会（会場：北海道科学大学）を、研究報告集の発行で済ませたことにもなっており、技術パネル展は開催しなかった。

(5)支部公式ウェブサイトのシステム・コンテンツ更新

総会終了後、各専門委員会を構成する委員の名簿ならびに活動計画の情報を更新した。

(6)道内工業高校 巡回講演会への講師派遣

- ・留萌高等学校建築科に、建築計画専門委員会 石橋 達勇 君（北海学園大学）を派遣する予定（2021年2月22日）であったが、派遣先が臨時休校措置とられたために、やむなく中止した。中止になった企画を、来年度実施することを検討する。
- ・小樽創造未来高等学校建設科に、材料施工専門委員会 横山 克己 君 と 石丸 到史 君（岩田地崎建設株式会社）を派遣し、講演「建設業の未来について」（2020年12月4日）を実施した。
参加者27名

<今後の予定：担当専門委員会>

- ・2021年度：歴史意匠専門委員会，都市防災専門委員会
- ・2022年度：構造専門委員会，環境工学専門委員会
- ・2023年度：都市計画専門委員会，北方系住宅専門委員会
- ・2024年度：材料施工専門委員会，建築計画専門委員会

2. 2 専門委員会の活動

◆ 材料施工専門委員会（主査：杉山 雅，委員数：22名，委員会開催数：1回）

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響も考慮し、以下の活動を行った。

- ①材料施工専門委員会における報告(材料施工本委員会，RC工事運営委員会，支部学術委員会等)は基本的にメールにより実施した。
- ②毎年実施している現場見学会は中止とした。
- ③道内工業高校巡回講演会については以下の通り実施した。
開催日時：12月4日(金)9：50～10：40
開催場所：小樽未来創造高等学校
参加者・聴講人数：小樽未来創造高等学校建設システム科1年生・27名
講演タイトル：建設業の未来について
講演者：横山克己氏(材料施工専門委員会)
- ④3月8日に第1回材料施工専門委員会をZoomにて実施した。

◆ 構造専門委員会（主査：植松 武是，委員数：22名，委員会開催数：0回）

委員会の主な活動は次の通りである。

1. 構成委員数 22名
2. 委員会開催数 コロナウイルスの影響により中止
3. 講演会（1回） コロナウイルスの影響により中止
4. 現場見学会（2回） コロナウイルスの影響により中止

◆ 環境工学専門委員会（主査：桑原 浩平，委員数：16名，委員会開催数：1回）

1) 第1回委員会（12/21, zoom開催，参加者10名）にて，北海道科学大学の平川秀樹委員に「札幌市内の事務所ビルにおける内窓改修の温熱環境改善効果に関する研究」に関して発表頂き，最新の研究動向を把握した。

2) 第15回環境工学系・卒業論文発表会（EGGs'20）を3月9日（火）にZoomで開催した（演題34題，発表者46名）。

3)（公社）空気調和・衛生工学会北海道支部セミナー・地区講演会「COVID-19感染予防を踏まえた学校教室の冬季暖房時の換気手法について」の開催（1/22, Zoom）を支援した。

◆ 建築計画専門委員会（主査：谷口 尚弘，委員数：11名，委員会開催数：2回）

構成委員数11名で，委員会開催数2回，拡大研究会1回を開催した。例年は一般市民を対象にした公開研究会を実施していたが，本年度は新型コロナ拡大感染症のため公開研究会を取りやめZoomによる拡大研究会（委員会内での勉強会）として開催した（参加者11名）。この拡大研究会は教育現場の方による「新型コロナ感染症拡大状況下における教育現場の現状と学校建築のあり方」の演題を聴講し，今後の学校建築についての議論を実施した。Zoomによる研究会は遠方の方々なども聴講しやすことがわかり，今後もこの実施方法での研究会は可能である。次年度以降も，社会事象に沿ったテーマを取り上げた研究会の実施を考えている。

◆ 都市計画専門委員会（主査：岡本 浩一，委員数：13名，委員会開催数：2回）

1) 構成委員数：13名

2) 委員会等開催数：2回（委員会：2回）

3) 構成委員等：構成は民間6名，行政4名，学術3名である。

4) 活動の内容：奇数月第3火曜日の定期開催を継続した。ただし，新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，例年5月の第1回開催は見送った。7月と9月に対面で委員会を開催した。新型コロナウイルスの出現による今後の都市像に関心を寄せて，民間，行政，学術の各分野における業務実態，都市計画やまちづくりの現場における対応状況などについて情報交換をおこなった。感染対応の実情，自治体ごとの取組み姿勢の相違，通勤・出勤状況の変化，指定管理者制度と給付金制度の不整合，遠隔講義・演習の課題などが話題にのぼった。11月は主査の発熱により委員会開催を見送った。また，東日本大震災10周年シンポジウムに関する支部活動の一端として，歴史意匠専門委員会と建築計画専門委員会との3委員会の共同名目で見学会を実施した。

◆ 歴史意匠専門委員会（主査：西澤 岳夫，委員数：17名，委員会開催数：2回，通信審議：1回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め，保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い，必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を整え活動した。具体的には，まず中止となった建築文化週間事業の代替支部企画として「旧五十嵐家住宅見学会」（10/10，参加者17名）を開催した。その他，三笠市からの委託調査研究や特定課題研究の一環としてトーチカの現況調査を行った。

◆ 北方系住宅専門委員会（主査：立松 宏一，委員数：12名，委員会開催数：1回）

1) 委員会については，新型コロナウイルスの影響によりメール開催（2月に1回）とし，学術委員会議事の伝達，次年度の活動に関する意見交換等を行った。

2) 当委員会委員が中心となり，「地域特性を目指した公共住宅の供給実態の把握」に関して特定課題研究への募集を行った。本件は非採択となったが，議論を継続して行った。

3) 2007年から継続的に実施し今年度で13回目となる予定だった住宅見学会・意見交換会については，新型コロナウイルスの影響で中止した。

◆ 都市防災専門委員会（主査：麻里 哲広，委員数：16名，委員会開催数：0回，通信委員会開催数：2回）

新型コロナウイルスの感染防止のため今年度は対面での委員会の開催を見送り、メールによる報告および審議等を行った。また、例年開催していた施工現場見学会も実施しなかった。同様に、2020年10月に予定していた建築文化週間事業「くしろ防災屋台村」についても、本部より文化週間事業としての中止要請があり、北海道釧路総合振興局においても中止が決定されたため、実施を見送ることとなった。

2. 3 特定課題研究委員会の実施

(2020年度より)

◆ 農漁村地域づくり研究委員会(主査：柳田 良造, 委員数：8名, 委員会開催数：5回)

2020年6月、8名の委員からなる研究委員会をスタート、2ヶ月おきに計5回の委員会を行うことができた。第1回は北海道農村での地域づくりの課題、問題点を出し合うとともに、研究会の進め方を議論した。第2回からは、委員の係わってきた地域と地域づくりについて発表する形式とし、まず上川の富良野地域での集落評価の方法について、話題提供があり、そのテーマについて質疑と議論を行った。第3回は石狩地域の当別町の里山田園住宅づくりについて、事業に関わってきた委員から話題提供があり、質疑と議論を行った。第4回は十勝地域の芽室町上美生地区の地域づくりに関わってきた委員から話題提供があり、質疑と議論を行った。第5回は東神楽町志比内地区の山村留学をめぐる地域づくりについての話題提供があり、質疑と議論を行った。いずれも興味深い内容で、質の高い研究的議論を行うことができ、次年度に向けて有益な一歩を踏み出した。

2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2019年度より)

◆ 北海道沿岸部戦争遺跡調査研究委員会(主査：西澤 岳夫, 委員数：7名, 委員会開催数：2回)

令和2年度は、網走市、釧路市、苫小牧市、根室市、厚真町、むかわ町において現地調査を行った。現存を確認したトーチカは総計36基、その他が10基であった。調査結果は地形図に各点をプロットするとともに、GPSによる位置情報、記録写真等を台帳にまとめ、このうち4基について実測図を作成した。その他、東日本大震災10周年シンポジウムWG5に関連して、2020年11月3日に見学会「大樹町に残るトーチカ - 戦争と浸食されて行く記憶」を実施した(共催：大樹町教育委員会、後援：大樹町、参加人数：17名)。関係自治体との情報共有、支部研究発表会への投稿を予定している。

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会(代表者)	委託者
2020.9.20	令和二年度三笠市炭鉱遺産調査及び図面調査業務委託研究	歴史意匠専門委員会 (主査 西澤 岳夫)	三笠市

4. 支部研究発表会の実施(主査：千葉 隆弘, 実行委員会委員数：16名, 委員会開催数5回)

開催要領

日本建築学会北海道支部 第93回研究発表会

日時：2020年6月20日(土)を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、誌上開催となった。

場所：北海道科学大学(札幌市手稲区)を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、

誌上開催となった。

参加者数：－

実行委員会委員

主査：千葉隆弘（北海道科学大学）

幹事：吉津利洋（北海道科学大学），岩澤浩一（北海道科学大学）

委員：

構造専門委員会 / 前田憲太郎（北海道科学大学），鈴木邦康（釧路工業高等専門学校）

材料施工専門委員会 / 三森敏司（釧路工業高等専門学校），伊東敏幸（北海道科学大学）

環境工学専門委員会 / 魚住昌広（北海道科学大学），栗原浩平（釧路工業高等専門学校）

建築計画専門委員会 / 谷口尚弘（北海道科学大学），真境名達哉（室蘭工業大学）

都市計画専門委員会 / 岡本浩一（北海学園大学），森朋子（札幌市立大学）

歴史意匠専門委員会 / 金子晋也（札幌市立大学），鈴木明世（北海道博物館）

都市防災専門委員会 / 高井伸雄（北海道大学），高瀬裕也（室蘭工業大学）

北方系住宅専門委員会 / 谷口尚弘（北海道科学大学），真境名達哉（室蘭工業大学）

実行委員会開催スケジュール

2019年12月末：建築雑誌会告入稿

2020年1月：建築雑誌会告

2020年2月：第1～3回実行委員会メール審議，論文投稿用HP作成

2020年3月13日：論文募集開始

2020年4月16日：論文投稿締切

2020年4月下旬：第4回実行委員会（誌上開催の検討，メール審議）

2020年4月下旬：第5回実行委員会（プログラム編成，メール審議）

2020年5月：プログラム校正

2020年6月中旬：CD発送

研究発表会

論文題数：100編（A原稿：70編，B原稿：19編，C原稿：9編，D原稿：2編）

優秀講演奨励賞

誌上開催のため審査中止

特別企画

誌上開催のため開催中止

懇親会

誌上開催のため開催中止

5. 表彰

5.1 北海道建築賞

(1) 北海道建築賞委員会（主査：加藤 誠，委員7名 委員会開催数2回）

本委員会は1975年、北海道支部に報奨制度が設けられて以来、道内に建てられた建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞・奨励賞にふさわしい作品を選考しており、2020年度は45回目となった。選考においては作品の有する「先進性」「規範性」「洗練度」の3つの視点を基本的な評価軸としている。本委員会は7名で運営を行った。

今年度はコロナ禍により、安全な状況で現地審査を行うことが不可能であると判断し、本賞の活動を中止とした。経緯は以下のとおりである。

4月20日(月):第1回委員会 メールによる会議。今年度審査を中止する可能性があることをHP掲載。

5月7日(木):第2回委員会 メールによる会議。今年度の中止を決定。

審査員

主査:加藤 誠

委員:石塚和彦、植田 暁、小澤 丈夫、河合 有人、斉藤 雅也、佐藤 孝

5.2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会(主査:菅原 秀見, 委員数:6名, 委員会開催数:1回)

2020年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。今年度はコロナ禍の中、審査方法の見直しを行い、事前に作品を共有したうえで、オンラインにて審査を行った。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は「大学」の部では金賞を1点、銀賞を1点、銅賞2点を選定した。「短大・高専・専門学校」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞1点を「工業高校」の部では金賞1点、銀賞1点、銅賞1点を選出した。審査後、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員

主査:菅原 秀見

委員:遠藤謙一良, 小倉 寛征, 小西 彦仁, 齊藤 文彦, 中山 眞琴

(2) 受賞者

◆ 大学の部 (応募作品数:14点)

・金賞 加倉 瑛晃殿:札幌市立大学デザイン学部デザイン学科人間空間デザインコース
作品名 — 懸郷抛 民俗文化財を基軸にした共助による空間

・銀賞 立花 恵大殿:北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — イサリビ継承—函館市入舟漁港の産業転換に伴う漁港再生計画—

・銅賞 湖東 陸殿:北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — 北都開拓—まちづくりする劇場—

・銅賞 花岡 大樹殿:室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
作品名 — 振る舞いの器—窪地と一体化した公園のような建築—

◆ 短大・高専・専門学校の部 (応募作品数:5点)

・金賞 佐藤 春樹殿:北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — Microcosmos

・銀賞 池田 倫殿:青山建築デザイン・医療事務専門学校建築学科
作品名 — 直立し、たゆたう暮らし

・銅賞 平塚 夕馬殿:北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — artificial respiration ~人工呼吸~

◆ 工業高校の部 (応募作品数：8点)

- ・金賞 阿部 大翔殿：北海道小樽未来創造高等学校建設システム科
作品名 — 小樽板翔倉庫
- ・銀賞 西村 風輝殿：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — 北斗図書館～やすらぎ～
- ・銅賞 三上 航平殿：北海道旭川工業高等学校建築科
作品名 — 緑のドッグラン

(3) 審査講評

◆大学の部

金賞・加倉 瑛晃殿

良い建築とは何かしらの「単位」を持ち合わせていると日頃思っている。

その「単位」が集積されていい建築ができ上がると思っていて、

その「単位」が何もなければただの箱である。

この懸郷抛という作品はその「単位」の多さを感じる。

建築の構成だけではなく神楽やコミュニティや風土といった単位は人々を和ませ、又奮い立たせる。

その集積された沸点こそがこの懸郷抛となる。

ドローイングはその単位を感じさせるばかりではなく、どこかもの悲しい。

その日本の現実や悲哀感、そして伝統性はこの作品に大きく位相する。

グローバルスタンダードが多い作品群の中でも特に日本らしさを感じる秀作である。

(文責：中山 眞琴)

銀賞・立花 恵大殿

函館市入舟漁港の再生計画。イカ漁を中心とした発展した漁港を、イカの養殖場・研究施設・セリ場・展望台と敷地の持つ特性を最大限活かし、一方で地域での歴史的施設の様々な部材・素材を施設に工夫活用する事で、歴史を継承した地域的アイデンティティの高い独自の提案となった。スラブを基壇状に組み上げることで、領域が緩やかに区分され、スラブの重なりがかもめの巢も内包し、大漁旗や廃船の鉄板の活用で、独自の有機的な環境が実現している。港全体の土木的スケールの提案は、スラブの多層化や隙間の建築空間の確保により、ランドスケープと建築が融合した新たな「場所の創出」に成功している。

(文責：遠藤 謙一良)

銅賞・湖東 陸殿

高度成長期の建設現場の風景を感じさせる佇まいは、現代の都市開発のアンチテーゼとして、現代の経済原理の開発が同じ景観を生むのに対し、この計画は公共がスケルトンフレームを提供し、市民が個人の活動単位でこのフレームに空間をインサートする。その空間は新陳代謝を繰り返す、それは未完の都市風景となり、やがて役割が終わった空間は解体されこの場所の地下に埋められアーカイブされる。まさに「まちづくり劇場」である。かつてのメタボリズムにはない人間の尺度と時間軸で考えられ、どこかノスタルジーな空気感や人間味があり、かえって新鮮さと斬新さをおぼえる意欲作であった。

(文責：小西 彦仁)

銅賞・花岡 大樹殿

振る舞いの器—窪地と一体化した公園のような建築—

敷地の持つ地形的特徴と歴史的背景を活かしながら、人々の活動を自然に誘うような優しい建築の提案です。

丁寧に描かれたパースからは作者の思い描く風景が、スケール感を抑えた断面計画からは利用者

の居心地の良さが、しっかりと伝わってきました。
一方、プログラムと造形からは、やや敷地の内に向けた計画との印象を持ちました。敷地周辺への広がりや波及効果なども大胆に提案できると、より良い作品になったと思います。
以上の点より、銅賞にふさわしい作品と判断しました。

(文責：小倉 寛征)

◆ 短大・高専・専門学校の一部

金賞・佐藤 春樹殿

迫力のあるドローイングだ。そこには都市の時間の蓄積を見事にとらえた壮大なストーリーが込められている。すすきのに建つ商業施設を解体するでもなく、保存するでもなく、記憶として、痕跡として増築部分と共存している。現代のスクラップアンドビルドに対する批判精神に基づく提案だろうが、既存部分を単なる廃墟として扱わず、新たなコミュニティ生成の場としてとらえ、過去、現在、未来が見事に共存する。ストーリーの確かさ、表現の豊かさから文句なしの金賞である。

(文責：菅原 秀見)

銀賞・池田 倫殿

眺望のよい傾斜地に計画された集合住宅である。集まって住みながら多様な暮らしを実現するために様々なバリエーションのある住戸が詰まっている。最上階の屋根の連なりも異なる傾斜となっており、単調になりがちな集合住宅に個性を与えている。2種類の間口も入庫世帯人数の変化への対応である。シンプルかつ丁寧な表現がコンセプトを明確に伝えていることが評価され、銀賞を与えるものである。

(文責：斎藤 文彦)

銅賞・平塚 夕馬殿

建築は人の利用度が重要で、人が常に利用する建築は生き生きとしている。スタジアムは人の利用が限定され、作者が言う呼吸していない状態が続くと考え、そんな状況から呼吸するスタジアムを提案された。人の呼吸器や循環器と対応させスタジアム機能を考えることにより、作者の言う死んだ今までのスタジアムから、生きたスタジアムにすべく計画は丘状の緑化公園でスタンドを包み込み人工的で巨大な風景ではなく、地域のランドスケープとしても心地よい。しかし外部の緑化公園はよいとして、内部のスタンドは他のスタンドと何が違い人を呼び込むかが読み取れなかったのが心残りだが、完成度は高く評価された。

(文責：小西 彦仁)

◆ 工業高校の一部

金賞・阿部 大翔殿

小樽運河に面して運河建設と同時期に建った北海製罐第三倉庫は97年の歴史を終え、現在閉鎖されている。本計画は、北海製罐第三倉庫をスケボーパークとして再生活用する提案。スケボーの滑走フィールドがない小樽に通年利用できるインドアのスケボーパークの提案は、ユーザーに魅力のある内容で、プランに運河の地図をモチーフにしてアイデアや屋根をくり抜いたアウトドアのスケボーパークは外観から想像できない提案であり、全体として変化に富んだ再生提案となっている。全体を貫くプレゼンテーションも会話が流れるようなユニークな新しさが評価された。

(文責：遠藤 謙一良)

銀賞・西村 風輝殿

新幹線駅のある都市でありながら、若者の居場所のない駅周辺地区に着目し、学生も市民も利用できるやすらぎの図書館の提案である。高校生の勉強の場、大人が利用できる喫茶室や植物園(温室)など、複合化という最新の図書館の試みまで踏み込んでいる。多くの諸室が必要な図書館としても丁寧に計画されている。地域の課題から図書館計画まで丹念に描かれており、高い評価を得た。よってここに、銀賞を与えるものである。

(文責：斎藤 文彦)

銅賞・三上 航平殿

旭川は日本一の動物病院があり、全国的にも知られている。
旭川駅を中心に、都心部と神楽地区の連結。
木々や湖の構築。室内の遊び場や複合施設。
「四阿」と呼んでいる、休憩スペースなどどれも楽しげである。
夜のライティングも見事である。人と犬の共存はこの敷地や地域の人々のコミュニケートの場
にまで昇華されている。
「もふもふ」と呼んでいる複合施設は、ビジターセンター機能や学習塾や資料コーナーもあり
子供達や動物達のふれあいや学びがこの施設を通して凝縮している。
この建築で、人と犬の橋渡しをしている。
建築の役目はちっぽけだが、その夢は大きい。

(文責：中山 眞琴)

5. 3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

2020年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

陰山 皓平殿・久保由香子殿：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
田中陽菜子殿・平田 奈羅殿：北海学園大学工学部建築学科
原 辰徳殿・次村 萌花殿：北海道科学大学空間創造学部建築学科
上机 歩輝殿・熊倉 有美殿：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
平野 未紗殿・山野茉里奈殿：東海大学国際文化学部デザイン文化学科
荒川 隼一殿・駒 翼殿：星槎道都大学美術学部建築学科
濱本 遥奈殿・梅川真由子殿：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科
空間人間デザインコース
高橋 陸殿・森田海咲樹殿：釧路工業高等専門学校創造工学科建築デザインコース
建築学分野
宮澤 朋裕殿：北海道職業能力開発大学校建築施工システム技術科
三上 孝輝殿：北海道職業能力開発大学校建築科
鈴木 萌殿：北海道札幌工業高等学校建築科
高橋 遼殿：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
西口 翔殿：北海道小樽未来創造高等学校建設システム科
対象学生なし：北海道小樽未来創造高等学校定時制電気・建築科
山谷 幸仁殿：北海道函館工業高等学校建築科
犬飼 朔良殿：北海道旭川工業高等学校建築科
古家 響殿：北海道旭川工業高等学校定時制建築・土木科
山岸 夢星殿：北海道苫小牧工業高等学校建築科
吉田 功殿：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
大橋 亮介殿：北海道帯広工業高等学校建築科
松下 歩輝殿：北海道釧路工業高等学校建築科
高井 太志殿：北海道名寄産業高等学校建築システム科
小南 将司殿：北海道室蘭工業高等学校建築科
縄 翔太殿：北海道留萌高等学校電気・建築科
尾形 空殿：北海道北見工業高等学校建設科

5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。

今年度は、最も長期にわたり支部会員を継続された以下の2社の法人会員を表彰した。

- ・株式会社日本設計札幌支社
- ・北海道建築設計監理株式会社

5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

- (1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：岡崎太一郎，委員数：10名 委員会開催数2回）
選考委員：支部長，学術委員会委員長，学術委員会委員の計10名

(2) 受賞者（順不同）

◆北海道支部技術賞

表彰技術名 — 高断熱を活かした木外装防火構造外壁の開発
 (地独)北海道立総合研究機構建築研究本部・森林研究本部 殿
 フェノールフォーム協会 殿
 押出発泡ポリスチレン工業会 殿
 発泡スチロール協会 殿
 ロックウール工業会 殿
 硝子繊維協会 殿

糸毛 治 殿	(地独)北海道立総合研究機構	建築研究本部
河原崎政行 殿	(地独)北海道立総合研究機構	森林研究本部
鈴木 大隆 殿	(地独)北海道立総合研究機構	
菊地 伸一 殿	(一社)北海道林産技術普及協会	
飯泉 元気 殿	(地独)北海道立総合研究機構	建築研究本部
宮内 淳一 殿	(地独)北海道立総合研究機構	建築研究本部
石川 佳生 殿	(地独)北海道立総合研究機構	森林研究本部
伊佐治信一 殿	(地独)北海道立総合研究機構	森林研究本部
林 昌宏 殿	(地独)北海道立総合研究機構	建築研究本部
遠藤 卓 殿	(地独)北海道立総合研究機構	建築研究本部
下ノ菌 慧 殿	(地独)北海道立総合研究機構	建築研究本部
小川 貢 殿	(地独)北海道立総合研究機構	建築研究本部

◆北海道支部技術賞

表彰技術名 — 非住宅施設でも採用可能な断熱障子の開発・実践
 株式会社 日本設計 殿
 Y K K A P 株式会社 殿

大山 政彦 殿 株式会社 日本設計
 永島 健児 殿 株式会社 日本設計
 五十嵐基明 殿 Y K K A P 株式会社

(3) 審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて，支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し，選考部会を計2回開催した。Covid-19感染拡大防止のために，2回ともオンライン会議とした。

初回の技術賞選考部会では，応募のあった下記2件の内容について協議した。

応募された技術等の名称：(1) 高断熱を活かした木外装防火構造外壁の開発，

(2) 非住宅施設でも採用可能な断熱障子の開発・実践（受付順）

第1回の技術賞選考部会は，募集要領の選考基準に定められる，「地域性・独自性」，「有効性・新規性」，「継承性・継続性」の3つの観点に基づき，技術内容を把握した。応募技術について，成果の今後の普及・展開方法に関する追加情報の提供を依頼することとした。

第2回の技術賞選考部会は、提出のあった追加資料を併せて、技術内容について再度各選考委員が議論したうえ、採決した結果、いずれの応募も、「適当である」が投票人数の過半数を超えたことから、2件を技術賞表彰候補とした。選定理由は、下記の通りである。

(1)については、断熱性と防火性能を併せもった、北海道の木造建築に使いやすい木外装を開発したものである。北海道内の施工の実情に適合していること、付加断熱材や構成材料の種類・仕様に幅広く対応していることが、注目される。防耐火実験によって、昨年度、防火構造の大臣認定を取得している。大臣認定書を無料公開することで、普及を促しており、すでに多くの活用実績がある。北海道に根差した地域性と独自性、有効性と新規性に鑑みて、技術賞表彰候補にふさわしいと評価された。

(2)については、寒冷地の非住宅建築における外皮の高断熱化手法として、断熱障子を開発したものである。実用例があり、フレームの工夫により断熱・気密性や操作性を向上させていること、調光性や遮音性の機能を併せ持ち、利用者自ら窓周りの環境をコントロールできる仕組みを提案していること、などが注目される。断熱性能や防露性能に関して実測による検証を行っていることも評価できる。北海道のオフィス環境の改善に資する地域性と独自性、有効性と新規性に鑑みて、技術賞表彰候補にふさわしいと評価された。

後日、支部役員会において、技術賞選考委員会から技術賞表彰候補として報告し、審議の結果、2020年度日本建築学会北海道支部技術賞に決まった。

(文責 岡崎 太郎)

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会（主査：小澤 丈夫，委員数：5名，実行委員数：14名，委員会開催数：5回）

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、8月12日に開催した第1回委員会において、例年通りの道立近代美術館を会場とした対面式開催を断念し、第40回建築作品発表会作品集VOL-40の刊行をもって作品発表会開催とすることを決定、その旨を開催要項に反映させ公募を開始した。また、第40回を記念し、発表会の過去10年を振り返る委員会委員による座談会の開催と、その内容の作品集への掲載を予定通り行うこととした。

応募総数は26作品であった。公募締め切り後、9月30日に開催した実行委員会において、以降の感染拡大の状況を注視しつつ、応募者と実行委員会委員に参加を限り、感染拡大防止策を講じた上で、限定的な対面式の作品発表と意見交換会を開催する可能性を探る方針を打ち出した。その後、すべての応募者に参加の意向があったこと、札幌市の感染状況がやや落ち着きを見せたことを委員会が確認した上で、12月19日に北海道大学工学部建築都市スタジオ棟において、感染拡大防止策を講じた上で、作品発表会と意見交換会を開催し、今年度の一連の行事を完了した。対面に加えZOOMによるオンライン参加も可能なデュアル方式の開催とし、次回に向けて開催手法のノウハウを蓄積した。例年行っている懇親会は中止とした。コロナ禍という特殊な状況下での開催経緯について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2020年12月号ならびに、日本建築学会「建築雑誌」2021年2月号に主査が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

期日：2020年12月19日（土曜日）13時～

会場：北海道大学工学部共用実験棟（建築都市スタジオ棟）

発表作品：26作品

感染拡大防止のため、吹き抜けをもつ第3空間を会場とし、対面参加人数を30名程度に限定し、ZOOMによるオンライン参加を併用した限定的な作品発表会と意見交換会を開催した。2回の休憩を含めた全体を3時間半程度に限った開催だったが、例年通り、多様な作品が発表され、活発な質疑応答が行われた。その後、参加者全員による今後の作品発表会の開催方式や、発表作品のアーカイブ化にむけた方向性と課題について議論を行った。今後、オンラインによる情報発信や資

料のデジタル化に向けた手法が益々多様化していく中、本建築作品発表が、学術の観点から、社会に対していかなる価値と意味をもちえるかを確認し、引き続き開催方式について慎重に検討していく必要性が共有された。

7. 特別委員会

7. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業系担当常議員）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中での可能な連携がとられ、活動に関し役員会への報告を行っている。本年度についても建築文化週間として北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施され印刷物やHPで公表されている。また、建築作品発表会は作品集の刊行、卒業設計審査委員会からは入選作品のHP掲載がされるなど公表されている。

7. 2 総務委員会（委員長：森 傑，担当常議員、委員会開催数：1回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

7. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎，幹事：齊藤 雅也，委員数：2名，メール等による情報交換を数回実施）

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なった。
- 2) イベント周知，報告等のFacebookページの更新作業を行った。
- 3) 各委員会ページの名簿，活動内容について見直しを行った。

7. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子café）（主査：野村 理恵，委員数：12名，委員会開催数：1回）

支部単独企画として、建築女子café@オンラインの企画立案を行い、2021年2月26日（金）に実施した。3名＋（1名：委員）より話題提供を行い、34名の参加があった。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8. 1 講習会

- (1) 本部主催講習会
- (2) 支部主催講習会
- (3) 支部委員会主催講習会（セミナー）

該当なし

8. 2 講演会

- (1) 本部主催講演会

該当なし

- (2) 支部主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2020. 12. 19	第 40 回北海道建築作品発表会（作品数 26 点）	北海道大学工学部建築都市スタジオ棟（共用実験棟+Zoom ミーティング		30 名（会場） 20 名（Zoom）
2020. 12. 4	「建設業の未来について」	北海道小樽未来創造工業高等学校	横山 克己 他 1 名	27 名
2. 22	「建築計画学とは？」	北海道留萌高等学校	石橋 達勇	中止

（3）支部委員会主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2021. 1. 31	拡大研究会「新型コロナウイルス感染症拡大状況下における教育現場の現状と学校建築のあり方」（建築計画専門委員会）	Zoom ミーティング	山田 洋一	11 名
2021. 3. 9	第15回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs20（環境工学専門委員会）	Zoom ミーティング	発表題数 34 題	46 名

8. 3 見学会

開催日	見 学 場 所	解 説 者	参加者数	主 催
2020. 10. 10	「旧五十嵐家住宅見学会」	歴史意匠専門委員会委員	17 名	歴史意匠専門委員会

8. 4 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2020. 5. 13～15 6. 5～7 11. 9～12	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	中止 中止 153 名
9. 14～ 2021. 3. 12	道内工業高校卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11 校	合計 1,080 名

9. 本部関連事業・その他

9. 1 2020 年度支部共通事業設計競技の実施

（1）支部共通事業設計競技審査委員会（主査：山田 良，委員数：5 名，委員会開催数：1 回）

委員会活動として設計競技審査会を 2020 年 7 月 9 日、5 名の委員全員出席のもとオンラインにて開催した。審査会開催にあたり、委員全員が事前に応募作品を閲覧し、あらかじめ各作品の内容を把握したうえで実施した。本年度の設計課題は「外との新しいつながりをもった住

まい」であり、昨年度から増えて8案の応募があった。5名の委員全員による議論を経て3案を支部入選案として決定した。支部入選案のうち一案は全国二次審査を経て全国入選を果たした。ここに入選者を称えると同時に、引き続き積極的な提案と、さらなる応募数の増加を期待したい。

支部審査員：

主 査： 山田 良

委 員： 赤坂 真一郎，久野 浩志，小西 彦仁，山之内 裕一

(2) 審査講評

2020年度支部共通設計競技「外との新しいつながりをもった住まい」審査評

・「札幌の住宅/5つの「外」のために」

川人 洋志（北海道科学大学）案

札幌圏を含め北海道の住宅近代化は戦後、寒冷地住宅の研究と普及から始まり、積雪寒冷な風土に適合した三角屋根の外観と家族が集う平面に向かう。本州型の開放性ではなく、独自の閉鎖型住宅が根付いた。その後、外と内の関係性を読み解く半屋外空間の模索は、温熱環境性能向上と共に北海道の主要なテーマとなった。こうした背景に立ち、提案はさらなる普遍性へ向かう。具体的には空に開く全面ガラス屋根、大地不凍ラインに沈床同化する室内、郷愁の三角屋根、さらに住宅群集合化を示し、「外と中」で定義するミニマルシェルターを提示して見せた。住宅は人間のためにある。しかし人間不在の表現に符合し、強く「外」を希求している点を評価した。

（文責：山之内裕一）

・「GLを共有する家々」～造成された敷地を集合の枠組みとして利用する戸建ての集合住宅

山崎 巧（室蘭工業大学）案

平地が少ない日本のいたるところで見られる段々状の住宅用分譲地。一般的に段差部分の法面は隣地境界線をより強調しているように見えるが、ここでは段差を地形的なコンテキストとして咀嚼し、複数の住宅が段差を跨ぎ、ある高さの地面（GL）を共有することで、新たな集合の枠組みを生み出そうとするアイロニカルな提案がなされている。既に出来上がってしまった分譲地の段差（＝一般的な敷地境界線）に惑わされることなく新たな境界線を引き直し、地面共有するという手法に、ありきたりな郊外の風景を変えられる可能性を感じた。

（文責：赤坂真一郎）

・「ドアを開けて」～外を受け入れる態度を可視化する、大きなドアの住宅～

福永 恵里（室蘭工業大学）他4名案

共有地や共有スペースを設けることで近隣とのコミュニケーションを図るという現実には無理がありそうな提案が多いなか、玄関ドアを住人のアクティビティのサインとして用いるこの案には可能性を感じた。カーテンで覆い尽くされた窓の家に近寄りたさを感じるのは、窓もなく中の様子が伺えないレストランに入りにくいと同じだと思う。リビングのカーテンを開けておくだけでも、隣人や友人が立ち寄ってくれることが多くなるのに。不自然さは人を遠ざける。この大きなドアが不自然な笑顔にならないような工夫がさらに必要だと思う。

（文責：久野 浩志）

9. 2 作品選集支部選考の実施

(1) 作品選集支部選考部会活動報告（主査：小篠 隆生：委員数5名：委員会開催数1回（メール審議）

新型コロナウイルス蔓延の影響を受けて、4月中旬に本部から2020年度の作品選集の支部での審査可能性の打診を受けた。支部選考部会ではメール審議を行い、可能性ありとの意見を出したが、本部理事会の判断でからの事業の中止を受け、今年度の支部での審査は中止となった。

支部審査員：

主 査：小篠 隆生
 委 員：菊田 弘輝，田川 正毅，前田 芳伸，真境名達哉

(2) 作品選集支部選考の結果

9. 3 建築文化週間

建築文化週間 2020

新型コロナウイルスの感染拡大影響のため中止

10. 建築関連団体との活動

10. 1 AIJ-JIA 合同委員会 (委員数(AIJ) : 8名)

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。

10. 2 北海道建築設計会議 (幹事会開催数 : 12回)

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、深瀬孝之と中西雅裕の2名を参加させた。幹事会においては、各団体と情報交換や意見交換を行った。

11. 共催・後援

(後 援)

期 日	名 称	会 場	主 催
9.30 応募締切	第45回「北の住まい」住宅設計コンペ KITA SUMA		北海道建築士事務所協会
10.9	「コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座 オンライン開催 大学から実務者へ～技術情報の発信と情報交換」	Cisco Webex ミーティング	日本コンクリート工学会
10.28	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部令和2年度第1回都市地域セミナー	Zoom ミーティング	日本都市計画学会北海道支部
11.28	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部令和2年度研究発表会	オンライン開催	日本都市計画学会北海道支部
2021.1.22	「COVID-19 感染予防を踏まえた学校教室の冬季暖房時の換気手法について」	Zoom ミーティング	空気調和・衛生工学会北海道支部

II 2020年度収支決算報告

2020年度 貸借対照表

2021年 3月31日現在

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産				1 流動負債			
現金預金	3,374,873	2,721,389	653,484	未払金	0	0	0
未収金	0	0	0	前受金	6,000	12,000	△6,000
前払金	171,809	171,809	0	預り金	19,871	20,373	△502
仮払金	27,756	27,672	84	仮受金	581,951	582,378	△427
				賞与引当金	0	0	0
流動資産合計	3,574,438	2,920,870	653,568	流動負債合計	607,822	614,751	△6,929
2 固定資産				2 固定負債			
(1) 基本財産	0	0	0	退職給付引当金	1,200,000	1,140,000	60,000
基本財産合計	0	0	0	固定負債合計	1,200,000	1,140,000	60,000
(2) 特定資産				負債の部合計	1,807,822	1,754,751	53,071
学術振興基金引当資産	4,380,000	4,670,000	△290,000	III 正味財産の部			
災害調査研究基金引当資産	1,900,000	1,900,000	0	1 指定正味財産			
支部基金引当資産	2,610,000	2,610,000	0	指定正味財産合計	0	0	0
退職給付引当資産	1,200,000	1,140,000	60,000	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
特定資産合計	10,090,000	10,320,000	△230,000	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(3) その他の固定資産				2 一般正味財産	12,418,166	12,047,669	370,497
敷金	561,550	561,550	0	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
その他の固定資産合計	561,550	561,550	0	(うち特定資産への充当額)	(8,890,000)	(9,180,000)	(△290,000)
固定資産合計	10,651,550	10,881,550	△230,000	正味財産合計	12,418,166	12,047,669	370,497
資産の部合計	14,225,988	13,802,420	423,568	負債及び正味財産合計	14,225,988	13,802,420	423,568

2020年度 正味財産増減計算書

2020年 4月 1日から 2021年 3月31日まで

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部							
1. 他会計振替額							
交付金収入	(6,826,000)	(6,862,000)	(△36,000)				
支部費	1,682,000	1,726,000	△44,000				
支部経営助成費	1,890,000	1,890,000	0				
事業促進費	300,000	300,000	0				
支部研究補助費	200,000	200,000	0				
教育文化事業交付金	548,000	558,000	△10,000				
大会交付金	0	0	0				
支部事務費	300,000	300,000	0				
支部事務所費	1,906,000	1,888,000	18,000				
他会計からの振替額計	6,826,000	6,862,000	△36,000				
2. 経常増減の部							
[1] 経常収益				[2] 経常費用			
(1) 実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)	(1) 実施事業会計	(589,196)	(1,414,129)	(△824,933)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)	調査研究事業	(294,108)	(497,675)	(△203,567)
表彰関係	175,000	175,000	0	調査研究事業	294,108	497,675	△203,567
(2) その他会計	(1,880,612)	(2,636,925)	(△756,313)	表彰・顕彰事業	(169,612)	(640,693)	(△471,081)
研究会事業	(1,380,612)	(2,136,925)	(△756,313)	表彰関係	166,818	635,332	△468,514
支部研究発表会	707,390	917,505	△210,115	設計競技	2,794	5,361	△2,567
建築作品発表会	669,120	1,219,420	△550,300	社会対応事業	(125,476)	(275,761)	(△150,285)
過年度研究会事業	4,102	0	4,102	文化事業	86,222	240,379	△154,157
委託事業	(500,000)	(500,000)	(0)	展示会事業	39,254	35,382	3,872
調査研究委託事業	500,000	500,000	0	(2) その他会計	(2,128,362)	(2,393,639)	(△265,277)
(3) 法人会計	(1,459)	(146,948)	(△145,489)	研究会事業	(1,703,362)	(1,968,639)	(△265,277)
特定資産運用益	(1,416)	(1,407)	(9)	支部研究発表会	407,660	662,764	△255,104
特定資産受取利息	1,416	1,407	9	建築作品発表会	1,295,702	1,305,875	△10,173
雑収益	(43)	(145,541)	(△145,498)	委託事業	(425,000)	(425,000)	(0)
受取利息	43	41	2	調査研究委託事業	425,000	425,000	0
雑収益	0	145,500	△145,500	(3) 法人会計	(5,795,016)	(6,070,295)	(△275,279)
				支部運営	(47,190)	(258,636)	(△211,446)
				支部総会	47,190	235,200	△188,010
				支部役員会	0	23,436	△23,436
				選挙管理委員会	0	0	0
				その他運営費	0	0	0
				支部事務運営	(5,747,826)	(5,811,659)	(△63,833)
				給与手当	2,080,934	2,132,620	△51,686
				退職給付費用	60,000	60,000	0
				法定福利厚生費	376,312	374,398	1,914
				福利厚生費	22,214	22,625	△411
				通勤手当	184,440	180,600	3,840
				旅費交通費	7,170	6,710	460
				通信回線費	131,995	119,698	12,297
				発送運搬費	16,033	29,590	△13,557
				消耗品費	52,490	36,991	15,499
				印刷費	33,195	41,833	△8,638
				支払手数料	19,140	28,320	△9,180
				賃貸料	138,640	144,940	△6,300
				地代家賃	2,061,708	2,042,958	18,750
				水道光熱費	526,614	540,098	△13,484
				雑費その他	36,941	50,278	△13,337
経常収益計	2,057,071	2,958,873	△901,802	経常費用計	8,512,574	9,878,063	△1,365,489
当期経常増減額	△6,455,503	△6,919,190	463,687				
当期一般正味財産増減額	370,497	△57,190	427,687				
一般正味財産期首残高	12,047,669	12,104,859	△57,190				
一般正味財産期末残高	12,418,166	12,047,669	370,497				
II. 指定正味財産増減の部							
指定正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)				
III. 正味財産期末残高							
正味財産期末残高	12,418,166	12,047,669	370,497				

2020年度 正味財産増減計算書（決算-予算対比）

2020年4月1日 ～ 2021年3月31日

一般社団法人 日本建築学会 北海道支部

科 目	予算額	決算額	差異
I. 一般正味財産の部			
1. 他会計振替額			
交付金収入	(6,753,000)	(6,826,000)	(▲73,000)
支部費収入	1,613,000	1,682,000	▲69,000
経営助成費収入	1,890,000	1,890,000	0
事業促進費収入	300,000	300,000	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0
教育文化事業交付金収入	544,000	548,000	▲4,000
支部事務費収入	300,000	300,000	0
支部事務所費収入	1,906,000	1,906,000	0
他会計からの振替額計	6,753,000	6,826,000	▲73,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係	175,000	175,000	0
その他会計	(2,160,000)	(1,880,612)	(279,388)
研究集会事業	(2,160,000)	(1,380,612)	(779,388)
支部研究発表会	1,070,000	707,390	362,610
建築作品発表会	1,070,000	669,120	400,880
過年度研究集会事業	20,000	4,102	15,898
委託事業	(0)	(500,000)	(▲500,000)
委託調査研究事業	0	500,000	▲500,000
法人会計	(178,000)	(1,459)	(176,541)
特定資産運用益	2,000	1,416	584
特定資産受取利息	2,000	1,416	584
雑収益	(176,000)	(43)	(175,957)
受取利息	1,000	43	957
雑収益	175,000	0	175,000
経常収益計	2,513,000	2,057,071	455,929
実施事業会計	(1,920,000)	(589,196)	(1,330,804)
調査研究事業	(740,000)	(294,108)	(445,892)
調査研究事業	740,000	294,108	445,892
表彰・顕彰事業	(760,000)	(169,612)	(590,388)
表彰関係	720,000	166,818	553,182
設計競技	40,000	2,794	37,206
社会対応事業	(420,000)	(125,476)	(294,524)
文化事業	390,000	86,222	303,778
展示会事業	30,000	39,254	▲9,254
その他会計	(2,235,000)	(2,128,362)	(106,638)
研究集会事業	(2,235,000)	(1,703,362)	(531,638)
支部研究発表会	885,000	407,660	477,340
建築作品発表会	1,350,000	1,295,702	54,298
委託事業	(0)	(425,000)	(▲425,000)

科 目	予算額	決算額	差異
委託調査研究事業	0	425,000	▲425,000
法人会計	(6,345,000)	(5,795,016)	(549,984)
支部運営	(310,000)	(47,190)	(262,810)
支部総会	250,000	47,190	202,810
支部役員会	40,000	0	40,000
選挙管理委員会	2,000	0	2,000
その他の運営費	18,000	0	18,000
支部運営(非課税)	(6,035,000)	(5,747,826)	(287,174)
給与手当	2,140,000	2,080,934	59,066
退職給付費用	60,000	60,000	0
法定福利費	365,000	376,312	▲11,312
福利厚生費	30,000	22,214	7,786
通勤手当	184,000	184,440	▲440
旅費交通費	20,000	7,170	12,830
通信回線費	100,000	131,995	▲31,995
発送運搬費	20,000	16,033	3,967
消耗品費	80,000	52,490	27,510
印刷費	75,000	33,195	41,805
支払手数料	30,000	19,140	10,860
賃借料	145,000	138,640	6,360
地代家賃	2,061,000	2,061,708	▲708
水道光熱費	660,000	526,614	133,386
雑費その他	65,000	36,941	28,059
経常費用計	10,500,000	8,512,574	1,987,426
当期経常増減額	▲1,234,000	370,497	▲1,604,497
当期一般正味財産増減額	▲1,234,000	370,497	▲1,604,497
一般正味財産期首残高	11,750,000	12,047,669	▲297,669
一般正味財産期末残高	10,516,000	12,418,166	▲1,902,166
指定正味財産期末残高			
正味財産期末残高	10,516,000	12,418,166	▲1,902,166

「支部役員会一覧」

支部長（2020.6.1～2022.5.31）

菊地 優（北海道大学教授）

常議員（2019.6.1～2021.5.31）

石井 旭（北方建築総合研究所地域研究部地域システムG主査）

植松 武是（北海学園大学教授）

※高井 伸雄（北海道大学准教授）

深瀬 孝之（北海道科学大学教授）

堀尾 浩（堀尾浩建築設計事務所代表）

松岡 佳秀（北海道建設部建築局建築保全課主査）

※山田 航司（清水建設㈱北海道支店設計部グループ長）

常議員（2020.6.1～2022.5.31）

※石塚 和彦（石塚和彦アトリエ一級建築士事務所代表）

垣田 淳（㈱竹中工務店北海道支店設計部課長代理）

佐伯 健一（北海道札幌工業高等学校建築科教諭）

菅原 秀見（㈱北海道日建設計総括室長）

中西 雅裕（大成建設㈱札幌支店建築部作業所長）

※前田憲太郎（北海道科学大学准教授）

山田 信博（札幌市立大学准教授）

代議員（2019.4.1～2021.3.31）

菅沼 秀樹（㈱アトリエブク代表取締役社長）

福島 明（北海道科学大学教授）

代議員（2020.4.1～2022.5.31）

久新信一郎（岩田地崎建設㈱北海道本店第二営業部部長）

米田 浩志（北海学園大学教授）

支部監事（2019.6.1～2021.5.31）

佐藤 孝（北海道科学大学名誉教授）

支部監事（2020.6.1～2022.5.31）

大條 雅昭（公益財団法人建築技術教育普及センター北海道支部事務局長）

総務委員長（2018.6.1～ ）

森 傑（北海道大学教授）

支部学術委員長（2020.4.1～2022.3.31）

岡崎太一郎（北海道大学教授）

支部HP管理委員会（2015.4.1～ ）

森 太郎（北海道大学准教授）

支部事務局

菊地八重子（日本建築学会北海道支部）

（※印 常任幹事）

監査報告

2020 年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2021 年 4 月 22 日

支部監事 _____

支部監事 _____

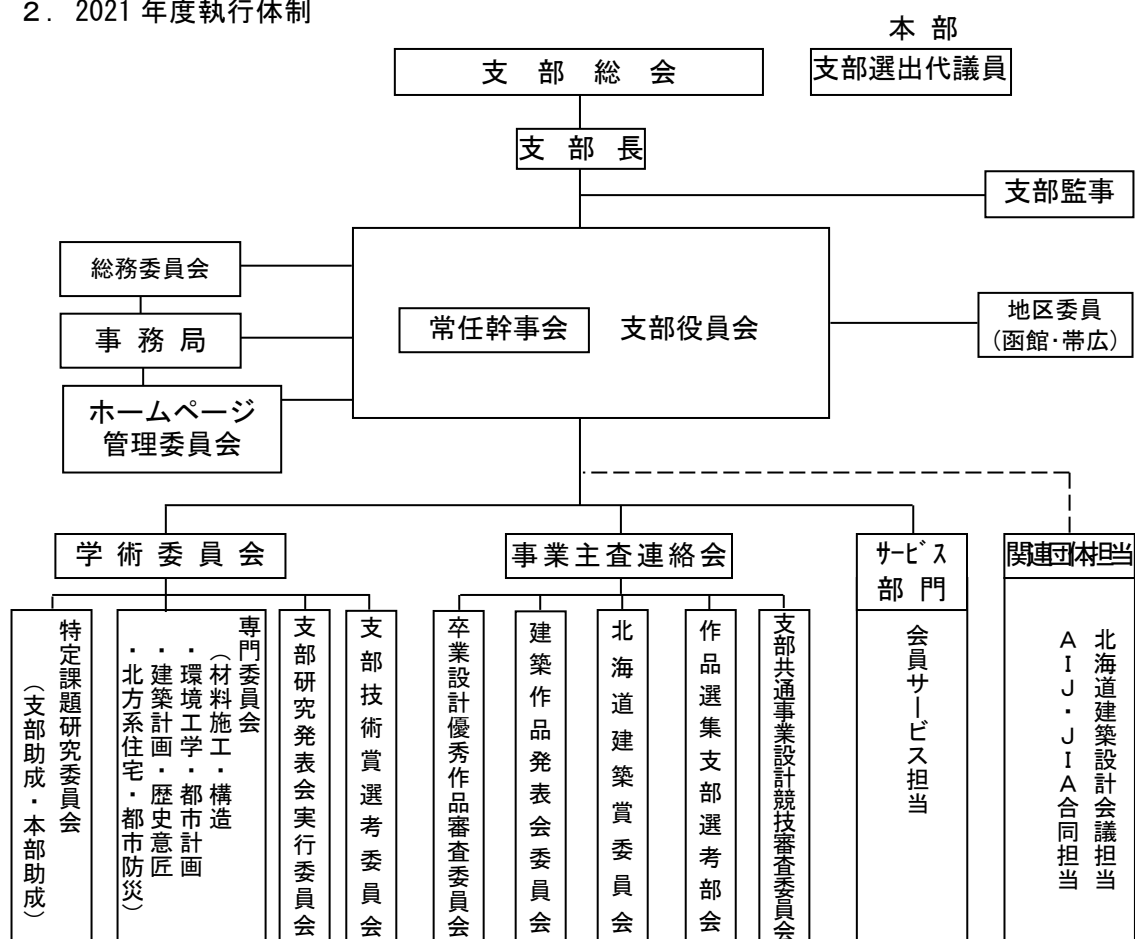
Ⅲ 2021 年度事業計画方針案

1. 活動方針

例年行われている事業（支部運営の諸会合の開催、受託研究の受託、支部研究発表会の実施、表彰、北海道建築作品発表会の実施、特別委員会、講習会・シンポジウム等の開催、本部関連事業・その他、建築関連団体との活動、共催・講演など）を行う。これらの事業を行うなかで、コロナ禍による学会活動の停滞回避に配慮し、支部活動・研究活動の活性化、若手や女性の活用・ネットワーク化などを考慮して活動を進める。

支部活動の維持・活性化のために財政の強化に関して継続的に検討する。また、支部事務所ビルおよび周辺の再開発計画等に対する情報収集などを行い、将来的な支部事務所のあり方について検討する。

2. 2021 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長（2020.6.1～2022.5.31）

菊地 優 北海道大学教授

新任常議員（2021.6.1～2023.5.31）

石橋 達勇 北海学園大学教授

今野 伴子 北海道建設部まちづくり局都市計画課総括主任

齋藤 茂樹 地方独立法人北海道立総合研究機構主査

鷺見 健二 SUMI 建築計画室代表

藤嶋 健太 清水建設(株)北海道支店設計部主任

桃野 直樹 岩田地崎建設(株)北海道本店総合主事

森 太郎 北海道大学准教授

新任常議員は、支部役員選挙開票（2021年4月20日）により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。（☆印 委員長）

石塚 和彦，菅原 秀見，☆高井 伸雄，前田憲太郎

留任常議員（2020.6.1～2022.5.31）

石塚 和彦 石塚和彦アトリエ一級建築士事務所代表

垣田 淳 (株)竹中工務店北海道支店設計部課長代理

佐伯 健一 北海道札幌工業高等学校建築科教諭

菅原 秀見 (株)北海道日建設計総括室長

中西 雅裕 大成建設(株)札幌支店建築部作業所長

前田憲太郎 北海道科学大学准教授

山田 信博 札幌市立大学准教授

新任代議員（2021.4.1～2023.3.31）

海藤 裕司 (株)日本設計札幌支社

千歩 修 北海道大学教授

（2021年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出）

留任代議員（2020.4.1～2022.3.31）

久新信一郎 岩田地崎建設(株)北海道本店第二営業部部長

米田 浩志 北海学園大学教授

新任支部監事（2021.6.1～2023.5.31）

菅沼 秀樹 (株)アトリエブク代表取締役社長

（2021年4月の支部役員会で承認）

留任支部監事（2020.6.1～2022.5.31）

大條 雅昭 公益財団法人建築技術教育普及センター北海道支部事務局長

地区委員（2021.6.1～2022.5.31）

帯広地区委員 小野寺 一彦 設計工房アーバンハウス主宰

函館地区委員 山本 真也 元函館市教育委員会教育長

3. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2021年5月21日(金)
会場 オンライン開催

◆ 支部役員会 (複数回)

◆ 常任幹事会 (複数回)

◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4. 1 学術委員会 (主査：岡崎太一郎, 委員数：13名, 委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から活動報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、支部研究発表会と連動する技術パネル展の企画と運営、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業の募集と選考、北海道支部技術賞の募集と支部技術賞選考委員会の設置による選考、道内工業高校巡回講演会への講師派遣を行なう。その他、事業主査連絡会との横断的な連携をはかる。

第1回：本部学術推進委員会の報告。支部研究発表会の報告。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間事業の募集。特定課題研究の募集。

第2回：支部研究発表会に関連する内容の審議。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間企画および特定課題研究の承認。支部技術賞の募集。

第3回：本部学術推進委員会の報告。次年度の支部研究発表会の企画、各専門委員会・研究委員会の活動報告。支部技術賞選考委員会の設置。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。各専門委員会・研究委員会の活動報告。特定課題研究の結果報告。支部技術賞選考委員会による支部技術賞の表彰候補の選考。

なお、特定課題研究委員会は、次の通りである。

(継続：支部助成) 農漁村地域づくり研究委員会「北海道の農漁村地域づくり計画の構築に関する研究」主査：柳田 良造 2020-21

(新規：本部助成)「三笠市の炭鉱遺産群の現地調査、及び歴史的研究」主査：西澤 岳夫 2021-22

4. 2 専門委員会

◆ 材料施工専門委員会 (主査：深瀬 孝之, 委員数：21名, 委員会開催数：3回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 勉強会(話題提供)
- ・ 見学会の開催

◆ 構造専門委員会 (主査：植松 武是, 委員数：21名, 委員会開催予定数：2回)

各種行事を企画して道内における構造分野の研究者・技術者との情報交換を行い、構造に関する研究調査を推進する。また、構造分野において、若手会員の学会活動への参加を支援する。更には、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮したこれらの活動の在り方や方法を模索する。

主な活動と時期など

- 1) 委員会の開催：2回（6月，12月）。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては，Webまたはメール審議とする。
- 2) 幹事会の開催：2回（9月，3月）。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては，Webまたはメール審議とする。
- 3) 講演会・講習会：2回程度。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とする。
- 4) 見学会：2回程度。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とする。
- 5) 勉強会：1回（委員会開催時）

内容は構造に関わらず幅広い分野を対象とする。但し，新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止とする。

◆ 環境工学専門委員会（主査：魚住 昌広，委員数：16名，委員会開催予定数：3回）

- 1) 学位を取得した若手研究者等の研究発表の機会を設け，最新の研究動向を把握する。
- 2) 環境建築や最新の設備技術等を導入した建築の見学会を，他委員会と連携して開催する。
- 3) 第16回環境工学系・卒業論文発表会（EGGs'21）の開催を支援する。
- 4) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催地区講演会ほか，本委員会の関係組織が主催する講演会，セミナー等を支援する。

◆ 建築計画専門委員会（主査：石橋 達勇，委員数：11名，委員会開催予定数：2回）

構成委員数11名、委員会開催数2回程度、見学会なども2回程度行う。北海道の建築計画（学）分野にかかわる新しい課題の把握、加えて精力的に社会貢献活動の展開を目指す。また、新たに北海道らしい建築計画的課題を探索しその解決策などを考察する。またこれらの成果は、公開研究会として積極的に公に開いていきたい。

◆ 都市計画専門委員会（主査：森 朋子，委員数：13名，委員会開催予定数：4回）

委員会を奇数月第3火曜日（5，7，9，11月）に固定し，サロン形式により適宜ゲスト枠も設けて開催する。産官学各分野に所属する委員構成が当委員会の特性であり，各担当業務やプロジェクト等について情報交換し，知恵出しおよび連携・協働の可能性も模索する。特に，札幌市では2030年新幹線延伸を見据えた都市開発が盛んで，抱えている諸課題解決の好機でもある。一方，2030年以後が語られる様子がない。これまで関心が集中していた人口減少・超高齢・少子社会の到来あるいは公民問わすの各種ストック老朽化だけでなく，新型コロナウイルスの出現による働き方や商業形態などの大きな変化も明らかに想定されることから，委員会としてビジョン等の提示などを目指したい。

◆ 歴史意匠専門委員会（主査：武田 明純，委員数：17名，委員会開催予定数：4回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として委託研究を含め社会や住民に貢献する体制を整備する。具体的には、建築文化週間事業として、見学会「小樽再発見（仮題）」を10月中旬に開催する予定である。この他、特定課題研究として三笠市に現存する炭鉱遺産の現況調査を行う。

◆ 北方系住宅専門委員会（主査：真境名達哉，委員数：11名，委員会開催予定数：2回）

新たな地域住宅像形成に向けた議論や、最新の住宅事情に関する意見交換、学会の事業への協力、参画の検討ため、年2回程度の委員会を開催する。また、新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会（第13回）を実施する。

◆ 都市防災専門委員会（主査：竹内 慎一，委員数：16名，委員会開催予定数：1回）

活動方針

委員相互の連携，防災関係機関との連携，他学協会との連携，地域との連携を強化するとともに，次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を進める。

新型コロナ禍での新たな委員会のあり方や進め方を考える。

主な活動事業

- 1) 建築文化週間事業「地震防災体験学習」の実施（2021年10月に釧路で予定）。
ただし、新型コロナの脅威が継続中の際には、オンライン用防災教育コンテンツの作成に代える。
- 2) 構造専門委員会や材料施工専門委員会との共催による見学会、講習会の実施。
- 3) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。
- 4) 各種防災イベントへの協力

4. 3 特定課題研究委員会

(2020年度より)

◆農漁村地域づくり調査研究委員会（主査：柳田 良造, 委員数：9名, 委員会開催予定数：6回）

2021年度は委員数9名、開催委員会は現地調査を含め6回を予定している。委員会の活動テーマは4つある。まず、昨年度研究会での議論の話題提供の事例となった地域の現地調査とヒヤリングを行い、地域づくりの状況、計画課題についてさらに知見を深める。2番目が、ゲスト委員なども招き、話題提供の事例を増やし、昨年度の話題提供の対象となっていない漁村の事例なども議論する。3番目が、過去に北海道の農漁村地域の地域づくりの計画遺産について、知見を深め、その問題点なども共有の財産とする。最後にまとめとして、それらの研究成果をもとに、北海道の農漁村地域でのあるべき地域づくりの方向、計画のあり方を委員会で様々な視点から考え、討議し、モデルとして地域づくりの計画課題、考え方を示す。

4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2021年度より)

◆三笠市炭鉱遺構群調査研究委員会（主査：武田 明純, 委員数：4名, 委員会開催予定数：複数回）

三笠市の炭鉱遺構群の現況調査、及び建築史的研究を行う。

5. 支部研究発表会

5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：植松武是, 幹事：千葉忠弘, 西澤岳夫, 実行委員会委員数：18, 委員会開催予定回数：6回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図りつつ、下記を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程と会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 建築学会 HP 論文検索システムに対応するための電子投稿時記載事項の改善
- 4) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 5) 特別企画の実施および技術パネル展開催の実施の判断（実施の際の支援）
- 6) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 7) 支部研究報告集（冊子および CD-ROM）の作成および発行
- 8) 支部研究発表会の実施
- 9) 優秀講演奨励賞の実施の判断（実施の際の選定方法の検討・授与）

支部研究発表会の実施

第94回北海道支部研究発表会

日時：2021年6月26日（土）一般研究発表会、特別企画

ホスト会場：釧路工業高等専門学校（釧路市大楽毛西）

原稿提出締切：2021年4月中旬（電子投稿受付）

発表登録システム HP：http://regist.hokkaido.seikyuu.jp/aij/entry/thesis_entry.php

支部研究報告集（冊子およびCD-ROM）No.94を発行

6. 表彰

6. 1 北海道建築賞（主査：加藤 誠，委員数：7名，委員会開催予定数：複数回）

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」「規範性」「洗練度」の3つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演会を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

（2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

1）第46回北海道建築賞の応募期間：2021年4月15日（木）～5月17日（月）

2）審査期間：5月上旬（応募状況の確認）～6月中旬（書類審査）～7・8月（現地審査）～9月上旬（最終選考）

3）結果発表：9月下旬（支部役員会での承認後）

4）北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会 10月下旬予定

（3）委員構成

留任委員7名で委員会運営を行う。

加藤誠（アトリエブंक/室蘭工業大学：主査）他6名。

6. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）（主査：菅原 秀見，委員数：6名，委員会開催予定数：1回）

（1）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工業高校の優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育および技術の向上を図る。

（2）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2021年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2020年度と同様、2021年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6. 3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰する

ことにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7. 1 北海道建築作品発表会委員会（主査：小澤 丈夫，委員数：5名，実行委員数：14名委員会開催数：5回（実行委員会4回を含む））

2020年度末現在、新型コロナウイルス感染拡大収束の見通しはまだまだっていない。そのため、2021年度に従来通りの対面形式での作品発表会が開催できるか否かについては、今後の感染状況を注視した上で、然るべき時期に開催可否とその方式について判断せざるを得ない。しかしながら、全面的な対面方式による開催が難しい場合でも、第41回建築作品発表会作品集VOL-41作品集の出版と、2020年度に試行済の参加人数を限定した対面方式とオンライン方式併用での開催を視野に入れながら、伝統ある本作品発表会を継続する予定である。併行して、2020年度に議論をはじめた発表作品のデジタルアーカイブ化ならびに情報公開方法について継続検討する。

7. 2 第41回北海道建築作品発表会の実施予定

第41回北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬

作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬

作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬

作品発表会開催場所：会場未定またはオンライン開催

8. 特別委員会

8. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員，必要に応じて開催）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中で、適宜事業を把握し、役員会へ報告提案をおこなう。それぞれの事業は印刷物やHPで公表するとともに支部事業の活性化を検討する。

8. 2 総務委員会（委員長：森 傑，担当常議員，委員会開催予定数：1回）

委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2021年度）

委員長：森 傑 北海道大学

委員： 担当常議員

8. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎，委員数：2名，必要に応じて開催）

2021年度は以下の活動を予定している。

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
- 2) Facebook ページへのイベント周知，報告を行う。
- 3) 会議資料等のアーカイブ手法の検討。

**8. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：野村 理恵，委員数：13名
委員会開催予定数：複数回）**

建築女子 café の第二弾企画を立案し、実施する。他団体との共同による女性交流イベントを行う。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9. 1 本部主催講習会

2021年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

**10. 1 2021年度支部共通事業設計競技の実施（主査：山田 良，委員数：5名，
委員会開催予定数：1回）**

2021年度設計競技審査委員会は、主査：山田良、委員：赤坂真一郎、久野浩志、小西彦仁、山之内裕一の5名で行う予定である。

2021年度の課題は「まちづくりの核として福祉を考える」と決定され、7月中に支部審査会を対面もしくはオンラインにて一回行う予定である。オンラインにて審査会を実施する際には、全応募作品の事前閲覧の機会を設ける予定である。2020年度の応募総数は8案であり、前回は応募数から減少した。今後の応募数増加を期待したい。

**10. 2 作品選集支部選考部会（主査：小篠 隆生，委員数：6名，
委員会開催予定数：複数回及び現地審査）**

今年度より、オンライン応募となる予定で、応募資料の閲覧の仕方なども今までと異なってくるのが予想され、支部での1次審査のやり方の検討は必要になる。支部選考に先立って開催される本部委員会での議論に則り進めることとする。選考の流れとしては、これまでの支部選考部会と同様に、応募資料に基づく1次審査、さらに現地審査をふまえての2次審査を考えている。

昨年度の中止があった影響で今年度の応募作品の増加が予想されるが、作品選集の主旨にかなう建築を、意匠・環境・構造など各分野の委員相互の十分な議論を通して選ぶとともに、本部での選考審査に耐えうる、北海道の価値ある建築が作品選集の掲載に至るよう評価を行い、本部へ推薦するものとする。

10.3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 「くしろ防災屋台村」(都市防災専門委員会)
2. 「小樽再発見」(歴史意匠専門委員会)
3. 第46回北海道建築賞表彰式・記念講演会(支部主催)

11. 建築関連団体との活動

11.1 AIJ-JIA 合同委員会(委員数(AIJ):5名, 委員会開催予定数:1回)

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

11.2 北海道建築設計会議

10団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

IV 2021年度収支予算案

2021年度予算書(正味財産増減計算ベース) 北海道支部

科 目	2021年度予算額	2020年度予算額	前年度比 (増 減)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 他会計からの振替額			
本部からの交付金	(6,738,000)	(6,753,000)	(▲15,000)
支部費	1,596,000	1,613,000	▲17,000
経営助成費	1,890,000	1,890,000	0
事業促進費	300,000	300,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	0
建築文化事業費	546,000	544,000	2,000
大会交付金	-	-	0
支部事務費	300,000	300,000	0
支部事務所費	1,906,000	1,906,000	0
他会計からの振替額計 (A)	6,738,000	6,753,000	▲15,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係事業	175,000	175,000	0
その他事業会計	(1,770,000)	(2,160,000)	(▲390,000)
研究集会事業	(1,770,000)	(2,160,000)	(▲390,000)
支部研究発表会	800,000	1,070,000	▲270,000
建築作品発表会	950,000	1,070,000	▲120,000
過年度研究集会	20,000	20,000	0
法人会計	(53,000)	(178,000)	(▲125,000)
特定資産運用益	(2,000)	(2,000)	(0)
特定資産運用益	2,000	2,000	0
雑収益	(51,000)	(176,000)	(▲125,000)
受取利息	1,000	1,000	0
雑収益その他	50,000	175,000	▲125,000
経常収益計 (B)	1,998,000	2,513,000	▲515,000
[経常費用]			
実施事業会計	(1,900,000)	(1,920,000)	(▲20,000)
調査研究事業	(740,000)	(740,000)	(0)
調査研究事業	740,000	740,000	0
表彰・顕彰事業	(740,000)	(760,000)	(▲20,000)
表彰関係事業	700,000	720,000	▲20,000
設計競技事業	40,000	40,000	0
社会対応事業	(420,000)	(420,000)	(0)
文化事業費	390,000	390,000	0
展示事業費	30,000	30,000	0
その他事業会計	(1,735,000)	(2,235,000)	(▲500,000)
研究集会事業	(1,735,000)	(2,235,000)	(▲500,000)
支部研究発表会	685,000	885,000	▲200,000
建築作品発表会	1,050,000	1,350,000	▲300,000
法人会計	(6,103,000)	(6,345,000)	(▲242,000)
支部運営	(170,000)	(310,000)	(▲140,000)
總會	110,000	250,000	▲140,000
常議員会	40,000	40,000	0
その他運営費	20,000	20,000	0
事務運営	(5,933,000)	(6,035,000)	(▲102,000)
給与手当	2,076,000	2,140,000	▲64,000
退職給付引当金繰入	60,000	60,000	0
法定福利厚生費	367,000	365,000	2,000
福利厚生費	30,000	30,000	0
通勤手当	184,000	184,000	0

科 目	2021年度予算額	2020年度予算額	前年度比 (増 減)
旅費・交通費	20,000	20,000	0
通信・回線費	120,000	100,000	20,000
発送・運搬費	30,000	20,000	10,000
消耗品費	40,000	80,000	▲40,000
印刷費	45,000	75,000	▲30,000
会議費	15,000	15,000	0
地代・家賃	2,061,000	2,061,000	0
水道光熱費	660,000	660,000	0
支払手数料	30,000	30,000	0
賃借料	145,000	145,000	0
雑費その他	50,000	50,000	0
経常費用計 (C)	9,738,000	10,500,000	▲762,000
当期経常増減額 (A) + (B) - (C)	▲1,002,000	▲1,234,000	232,000
当期一般正味財産増減額	▲1,002,000	▲1,234,000	232,000
一般正味財産期首残高	11,920,000	11,750,000	170,000
一般正味財産期末残高	10,918,000	10,516,000	402,000
指定正味財産期末残高	-	-	-
正味財産期末残高	10,918,000	10,516,000	402,000

<注記>

2021年度の「一般正味財産期首残高」は、2020年10月末時点における2020年度決算見込数値による

支部特定資産積立と取崩の実績と予定
(2020年度実績 2021年度予定)

	2020年度 特定資産積立・取崩 実績				2021年度 特定資産積立・取崩 予定		
	2020年度 期首残高	2020年度 積立	2020年度 取崩	2020年度 期末残高	2021年度積立	2021年度取崩	2021年度期末残高
学術振興基金引当資産	4,670,000円	0円	△290,000円	4,380,000円	0円	90,000円	4,290,000円
支部基金引当資産	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円
災害調査研究基金引当資産	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円
退職給付引当資産	1,140,000円	60,000円	0円	1,200,000円	60,000円	0円	1,260,000円
合計	10,320,000円	60,000円	△290,000円	10,090,000円	60,000円	0円	10,060,000円

【2020年度 積立・取崩(実績)】

学術振興基金引当資産 特定課題研究委員会「農漁村地域づくり研究委員会(2020-2021)」のため、90,000円を取り崩し。
建築作品発表会40周年事業のため200,000円を取り崩し。

退職給付引当資産 2020年度職員退職給付引当金として60,000円を積立。

【2021年度 積立・取崩予定】

学術振興基金引当資産 特定課題研究委員会「農漁村地域づくり研究委員会(2020-2021)」のため、90,000円を取り崩し。

退職給付引当資産 2021年度職員退職給付引当金として60,000円を積立予定。

V 支部規程の改正

変更理由：支部総会での議事が、支部の事業計画および収支予算、事業報告および決算報告のみを報告していることから、その実態に即した形で、北海道支部、東北支部、関東支部、近畿支部、九州支部の5支部は、支部総会での議決事項を支部役員会における議決に移行し、その結果を支部総会に報告する変更を行う。また、5支部の支部総会では議決事項がないため、支部総会の成立要件を不要とする変更を行う。

現行	変更案
<p>第5条（支所） 第3条の地域で相当多数の所属会員をもつ遠隔の地に、支部活動の円滑をはかるため、特に必要と認めた場合には、<u>支部総会の議を経、かつ、理事会の承認を得て、この支部の補助機関として支所を設けることができる。</u>また、廃止の場合にも同様の手続きを必要とする。イ)</p> <p>第11条（支部総会） 支部通常総会は毎年1回、支部長がこの支部に所属する正会員を招集して開く。イ)</p> <p>2. 支部臨時総会は、支部役員会が必要と認めたととき、またはこの支部に所属する正会員の10分の1以上からの請求のあったときに支部長が招集して開く。イ)</p> <p>3. 支部総会は通信によって行うことができる。イ)</p> <p>第12条（支部総会の議決事項、報告事項） <u>支部総会はこの規程で別に定める事項のほか、次の事項を議決または承認する。イ)</u></p> <p><u>（1） 支部規程の変更</u></p> <p><u>（2） 支所の設置ならびに廃止</u></p> <p><u>（3） その他支部役員会で必要と認められた事項</u></p> <p>イ)</p> <p><u>2. 次の事項は、支部総会において報告を行うこととする。イ)</u></p> <p><u>（1） 支部の事業計画および収支予算 イ)</u></p> <p><u>（2） 支部の事業報告および決算報告 イ)</u></p> <p>第13条（支部総会の議決） <u>支部総会は、この支部に所属する正会員の30分の1以上の出席によって成立する。イ)</u></p> <p><u>2. 支部総会の議事は、出席正会員の過半数で決し、可否同数のときは議長が決める。イ)</u></p> <p><u>3. この支部規程の変更に関しては、出席正会員の4分の3以上の同意を必要とする。</u></p> <p>第14条（支部総会の議決権） <u>正会員は、各1個の議決権をもつ。イ)</u></p> <p><u>2. 議決権の行使は、他の出席正会員に委任することができる。</u></p> <p><u>3. 前項による委任は出席とみなす。</u></p> <p><u>4. 第11条第3項の通信による支部総会の成立および議決は、その回答をもって第13条第1項に定めた出席者とみなして行い、議決に関してはこの条の第1項および第13条第2項を適用する。イ)</u></p> <p>第24条（規程の改廃） この規程の改廃は、<u>支部総会の議を経て理事会の決議によって行う。</u>イ)</p>	<p>第5条（支所） 第3条の地域で相当多数の所属会員をもつ遠隔の地に、支部活動の円滑をはかるため、特に必要と認めた場合には、<u>支部役員会の議を経、かつ、理事会の承認を得て、この支部の補助機関として支所を設けることができる。</u>また、廃止の場合にも同様の手続きを必要とする。イ)</p> <p>第11条（支部総会） 支部通常総会は毎年1回、支部長がこの支部に所属する正会員を招集して開く。イ)</p> <p>2. 支部臨時総会は、支部役員会が必要と認めたととき、またはこの支部に所属する正会員の10分の1以上からの請求のあったときに支部長が招集して開く。イ)</p> <p>3. 支部総会は通信によって行うことができる。イ)</p> <p>第12条（支部総会の報告事項） 支部総会において次の事項を報告する。イ)</p> <p>（1） 支部の事業計画および収支予算 イ)</p> <p>（2） 支部の事業報告および決算報告 イ)</p> <p>（3） 支部規程の変更</p> <p>（4） 支所の設置ならびに廃止</p> <p>（5） その他支部役員会で必要と認められた事項</p> <p>（削除）</p> <p>（削除）</p> <p>第24条（規程の改廃） この規程の改廃は、<u>支部役員会の議を経て理事会の決議によって行う。</u>イ)</p>

◆法人正会員

会員社名・団体名

会員社名・団体名

伊藤組土建(株)
 岩倉建設(株)
 岩田地崎建設(株)
 (株)岡田設計
 亀田工業(株)
 鹿島建設(株)北海道支店
 (株)熊谷組
 (株)北海道日建設計
 丸彦渡辺建設(株)
 大成建設(株)札幌支店
 宮坂建設工業(株)
 (株)竹中工務店北海道支店
 五洋建設(株) 札幌支店
 東急建設(株) 札幌支店
 (株)久米設計札幌支社
 (株)サンキット・エーイー
 (株)コバエンジニア
 (株)土屋ホーム
 (株)田辺構造設計
 土木研究所寒地土木研究所

戸田建設(株)札幌支店
 (株)巴コーポレーション札幌支店
 日鉄セメント(株)
 日本データサービス(株)
 (株)日本設計札幌支社
 日本防水総業
 (株)三菱地所設計北海道支店
 (株)アトリエアク
 (株)中原建築設計事務所
 (株)北方住文化研究所
 (株)ドーコン建築都市部
 北海道建築設計監理(株)
 北海道コンクリート工業(株)
 清水建設(株)北海道支店
 (株)田中組
 (株)三暁プレコンシステム
 (株)北海道不二サッシ
 (株)アトリエブク
 (一財)北海道建築指導センター
 (株)フィルド

◆賛助会員

会員社名・団体名

北海道電力(株)
 星槎道都大学附属図書情報館
 北海学園大学附属図書館
 (株)総合資格



一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://hokkaido.aij.or.jp/wp/>